

記 入 日 2018年1月15日

1. 概 要

実践団体名	一般社団法人 長洞元気村		
連絡先	090-4479-2158		
プランタイトル	高齢者(好齢者)が創る防災教育ビジネスプラン		
プランの対象者※1	2.3.4.5.6.7.8.11.16	対象とする 災害種別※2	2

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

東日本大震災の被災高齢者が自らの被災体験を防災教育として語り伝えることで、自らは好齢者となり参加者は防災への備えを強く意識するようになることが目的です。

被災地体験ツアーや防災教育の場として1人500円の体験料を頂き、語り部や昼食交流会などに参加した高齢者には時給400円の小遣いを支払うことで持続可能な活動にしていることが大きなポイントと捉えています。

【プランの概要】

- ・クロスロードゲームの手法で長洞集落の被災後の自治会の取り組みを紹介するプログラムの作成
- ・復興紙芝居「一緒ががんばっぺし」による小学校低学年向け教育プログラムの作成
- ・滞在型被災地体験ツアーや民泊修学旅行に防災教育を組み入れる「楽しい防災教育」の実践

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・被災地・被災者であることのリアル感が参加者の防災に対する真剣度をあげ、心に残る防災教育が出来ているし今後も期待される。長洞元気村のAKB(諦めない可愛いばあちゃん)の活躍は感動もの!

2. プランの年間活動記録 (2017 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	プレゼン教材の見直し	プレゼン教材作成	防災教育実施案内郵送配布
5 月	プレゼン教材の見直し 英語版編	バン格拉デシュ国営放 送研修視察団	「クロスロードで長洞元気村を知る」 プレゼン教材で交流-昼食交流会-
6 月	プレゼン教材の見直し 小学生編 高校生・大学生編	一関市立川崎小学校① 関西学院大学 ノーステキサス大学②	同上
7 月	防災ワークショップ について (商工観光課)	一関市立新沼小学校 熊本大学・岩手大学	同上
8 月		白百合学園高校 神奈川県大和市小中学生	同上
9 月	クルージング航路につ いて (広田湾漁協)	明治学院大学③	同上 ※港湾復興状況視察クルージング
10 月	防災教育について (民泊受入れ家庭)	JICA のコミュニティ防 災研修団・民泊修学旅行	同上
11 月	民泊修学旅行		同上 ※港湾復興状況視察クルージング
12 月		田園調布雙葉学園高校	「クロスロードで長洞元気村を知る」 プレゼン教材で交流
1 月	報告書作成		
2 月		明治学院大学	活動報告会
3 月	決算書作成		

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	防災体験かまど炊き&クロスロードゲームで長洞元気村を知る																		
実施月日（曜日）	平成29年6月23日																		
実施場所	長洞元気村 なでしこ工房&番屋(陸前高田市広田町字長洞47-1)																		
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：村上誠二&なでしこ会 所属・役職等：一般社団法人長洞元気村事務局長																		
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前10:30～午後14:00 2コマ×1時間（体験学習1コマ 防災教育1コマ）																		
プログラムのカテゴリ、形式※4	4. 13																		
活動目的※5	8																		
達成目標	概ね達成																		
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業体験&伝統菓子柚餅子づくり ・ 防災体験かまど炊き ・ 昼食交流会 ・ クロスロードゲームで長洞元気村を知ろう 																		
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業体験（ワカメ加工作業）指導者2名 ・ かまど炊き指導者2名 ・ 柚餅子づくり指導者2名 ・ 「クロスロードゲームで長洞元気村を知ろう」指導者1名 プロジェクター かまどセット 																		
参加人数	5年生22名 引率教師5名 長洞元気村10名																		
経費の総額・内訳概要	<table> <tr> <td>総額</td> <td>110,000 円</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>かまどセット</td> <td>14,804 円</td> </tr> <tr> <td>プロジェクター</td> <td>50,000 円</td> </tr> <tr> <td>丸いす</td> <td>29,849 円</td> </tr> <tr> <td>柚餅子材料</td> <td>4,000 円</td> </tr> <tr> <td>ワカメ</td> <td>3,800 円</td> </tr> <tr> <td>新聞バック</td> <td>4,400 円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3,147 円</td> </tr> </table>	総額	110,000 円	内訳		かまどセット	14,804 円	プロジェクター	50,000 円	丸いす	29,849 円	柚餅子材料	4,000 円	ワカメ	3,800 円	新聞バック	4,400 円	その他	3,147 円
総額	110,000 円																		
内訳																			
かまどセット	14,804 円																		
プロジェクター	50,000 円																		
丸いす	29,849 円																		
柚餅子材料	4,000 円																		
ワカメ	3,800 円																		
新聞バック	4,400 円																		
その他	3,147 円																		
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>子どもたちが熱心に取り組む姿は感動的で有り高齢者のやる気元気を引き出します。お土産の新聞バックに入れた塩蔵ワカメを食べるときは必ず元気村の話をする事を約束しました。防災の意識が各家庭にも伝わるものと思います。</p> <p>【課題】</p> <p>分かりやすい・楽しいプレゼン教材作成</p>																		
成果物																			

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	コミュニティ防災ワークショップ研修会										
実施月日（曜日）	平成 29 年 6 月 28 日										
実施場所	長洞元気村 なでしこ工房&番屋(陸前高田市広田町字長洞 4 7 - 1)										
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：村上誠二&なでしこ会 所属・役職等：一般社団法人長洞元気村事務局長										
所要時間または 「コマ数×単位時間」	午前 11：30～午後 16：00 昼食交流会 1 時間 クロスロードゲームで長洞を知ろう 1 時間 30 分 防災ワークショップ 1 時間 30 分										
プログラムの カテゴリ、形式※4	2										
活動目的※5	9										
達成目標	概ね達成できた										
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食交流会 被災者との交流 -元気なばあちゃんたち～ どうしてこんなに元気なの？ ～ ・「クロスロードゲームで長洞元気村を知ろう」 指導者 1 名 ～ レジリエントなコミュニティ(絆) ～ ・コミュニティ防災ワークショップ ～ コミュニティの底力をアップしよう ～ 										
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食交流会 ファシリテーター 2 名 ・「クロスロードゲームで長洞元気村を知ろう」 指導者 1 名 ・ワークショップ ファシリテーター 2 名 パソコン・プロジェクター その他 										
参加人数	学生 12 名 引率職員 2 名 長洞元気村 10 名										
経費の総額・内訳概要	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>総額</td> <td style="text-align: right;">10,000 円</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 柚餅子</td> <td style="text-align: right;">4,200 円</td> </tr> <tr> <td> 新聞バック</td> <td style="text-align: right;">2,800 円</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td style="text-align: right;">3,000 円</td> </tr> </table>	総額	10,000 円	内訳		柚餅子	4,200 円	新聞バック	2,800 円	その他	3,000 円
総額	10,000 円										
内訳											
柚餅子	4,200 円										
新聞バック	2,800 円										
その他	3,000 円										
成果と課題	<p>【成果】 コミュニティ防災についての話し合いは大いに盛り上がり、長洞集落のコミュニティに矛路を持つことが出来た。</p> <p>【課題】 エピソードではなくエビデンスとして伝えるには防災について学ぶ必要がある。</p>										
成果物											

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	海からの復興視察「防災クルージング」
実施月日（曜日）	平成 29 年 9 月 7 日～9 日（2 泊 3 日）
実施場所	長洞元気村 なでしこ工房&番屋（陸前高田市広田町字長洞 4 7-1） 長洞漁港 大野湾周辺クルージング
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：村上誠二（一般社団法人長洞元気村事務局長） ：岡田勝太（NPO 法人 SET） ：なでしこ会
所要時間または「コマ数×単位時間」	クロスロードゲームで長洞元気村を知ろう 2 時間 柚餅子づくり・ワカメ芯抜き体験 2 時間 昼食交流会 2 時間 夕食交流会 2 時間 海からの復興視察クルージング 1 時間 30 分 被災現場で語り継ぐ（語り部） 1 時間 30 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	13 17
活動目的※5	1 8 9 10
達成目標	概ね達成できた
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の状況と復興の状況を知る。 ・被災者が伝えたいと思うことを知る。 ・災害後の地域コミュニティの役割（エピソードではなくエビデンスとして）を知る。 ・クロスロードゲームで自分事として考えることを学ぶ。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	講師 2 名 クルージング補助員 1 名 体験学習等指導者・ファシリテーター 4 名 クルージング用船 救命胴衣 パソコン・プロジェクター その他
参加人数	学生 31 名（SET25 名明治学大 6 名）長洞元気村 11 名 その他 1 名
経費の総額・内訳概要	船チャーター料 10,000 円
成果と課題	<p>【成果】 三陸の自然や人々とふれ合う中で東日本大震災の陰陽に思いを巡らすことが出来た。海からの復興視察は楽しく気持ちがいい。</p> <p>【課題】 船で語る「東日本大震災」（船上で迎えた大津波について）</p>
成果物	

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今なお防潮堤の工事中で有り工事関係者や漁業者の理解と協力を得ることが必要と考え、復興視察クルージングでは、極力漁業者に迷惑を掛けないような航路設定とした。長洞集落の漁業者や広田湾漁業協同組合との調整が天候によって実施日が異なることから最終決定を誰がどのように行うかなど詳細な計画が求められ苦勞した。 ・安全対策として救命胴衣はもちろん補助員を乗せ複数の体制を組めたのは良かった。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせたクロスロードゲーム教材にすることが苦勞した点である。クロスロードゲームの進め方の説明に時間を要したことも反省点として残った。 ・英文のパンフレットを作成し、海外からの参加者に配付して、長洞元気村の取り組みを紹介し、コミュニティ防災の研修資料としている。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年々震災の記憶が風化し防災教育への関心も薄れている。伝える側もまた高齢化とともに語ることが減ってくる。 ・そんな中で長洞元気村の取り組みが一冊の本になったことは喜ばしい。陸前高田・長洞元気村 復興の闘いと支援 実践！復興まちづくり 復興まちづくり研究所〔編〕 ・出版された本により記憶を呼び起こし伝えるべきことを考え直すことが出来る。整理して「備える」ことの大事さを訴えたい。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	一関市教育委員会 一関市内小学校	事業のお知らせ
保護者・ PTAの組織		
地域組織	長洞地区自治会	事業の周知と協力依頼
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等	千代田化工建設株式会社	事業の周知と協力依頼
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 法人 SET	事業の周知と協力依頼
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	復興まちづくり研究所	実践！復興まちづくり 出版

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>閉じこもりがちな被災高齢者の活躍の場ができ、高齢者が好齢者となって活躍している。人口減少の中長洞集落は人口が増えている。防災教育にどのように取り組んだらいいか悩んでいる学校や教員に「コミュニティ防災」として受け入れられ、何度も訪問してくれる学校や大学関係者も多い。JICAのコミュニティ防災研修や海外からの参加者も増える中で、被災高齢者が積極的に受け入れ交流している様子は微笑ましいくらいだ。防災教育を軸に生き活きた地域づくりが出来ている。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>中学生以上は東日本大震災の記憶を自分事として持っているので被災の話や被災後の話を興味深く聞くことが出来るが、小学生となると全く違ったとらえ方になり伝えることの難しさを痛感させられる。 低学年用の教材開発など必要である。 防災教育チャレンジプランの実践団体であることが学校からの理解が得やすく多くの学校に参加していただいた。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>継続させるためには予算が必要である。被災地体験ツアーなどでは体験料をいただきある程度の収入を担保している。民泊修学旅行も増えており、収入を確保しながら防災教育プログラムとして提供していくこととしている。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

防災教育を現状の小学校や中学校に委ねるのは現場からすると無理があるように思う。
教育内容や教員負担を精査して組み込んで行くのであれば有りかもしれないが教員の過労自殺を助長するようで直ちには賛成できないで居る。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)